



雨天の収穫も楽しい思い出

数日前には北関東や東北部で記録的な豪雨による災害が発生し、その余波によって札幌地方もあいにくの雨模様となりました。リンゴのシール貼りはできまじましたが、ほぼ予定していたカリキュラムは何とか頑張って行ないました。

1時限目はリンゴのシール作り。縦横5cmほどのラベル用紙に黒のフェルトペンで思い思いの図形や文字を描きました。あらかじめ家で図案を考えてきたお友だちも多く、立派なシールが出来上がりました。しかし、リンゴが濡れているためシールを貼ることができません。後日、リンゴの表面が乾いたところで西本さんが貼って下さることになっています。来月には真っ赤なリンゴに文字や絵がクッキリと浮かび上がっているはずですよ。



2時限目は砥山ふれあい果樹園でブルーンの収穫です。雨は降り続いていますがブルーンの魅力に気持ちが折れることはありませんでした。枝はたわわに実が鈴なりに重たげに垂れ下がっています。園主の説明もそこそこに楽しみにしていたブルーンを採り早速かぶりつきました。今までブルーンが嫌いだったお友だちもその新鮮さと美味しさに驚きたくさん食べる事ができました。



落花生を作るのは農業小学校で初めての試みです。生長するかどうか心配でしたが見事に収穫できるまでになりました。数本の茎をつかんで引き抜くと根の部分に落花生の実がいくつかついていました。北海道においては馴染みのない作物であり、枝豆のように実を付けると思っている人もいます。収穫した時の反応は様々でした。根の土を洗い流して実をもぎ取り、茹でて食べることができます。想像以上においしいというのが皆さんの感想でした。

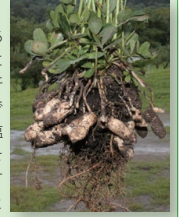


枝豆はバケツに3杯半もの収穫がありました。一部試食する以外は持ち帰ることになっています。



落花生について

ラッカセイは漢字では「落花生」と書きます。花がしぼむと、つぼみである子房柄(しぼうへい)と呼ばれる部分が地中へぐもぐも行って、やがて実になるという、珍しい育ちからついでに名前です。収穫した実を、天日に干して数日乾燥させた後、サヤを切り離し、中の実を取り出してフライパンで空炒りします。香ばしい色になったらバターを加えてつやを出し、最後は塩味をきかせる、とても美味です。また、天日乾燥させると、すぐさまサヤを切り離して水洗いし、サヤつきのままゆずりてした茹でラッカセイもおすすめです。エタマメと似た味とほくほくとした歯ごたえで、バターピーナッツとはひと味違う食感が楽しめます。*次のページの下部に続きがあります。



ブルーンについて

ブルーンは、バラ科サクランボ属の落葉喬木で、西洋スモモの一種。中でも、赤紫色の実をつぶし、主にドライフルーツとして食されるものが一般に「ブルーン」と呼ばれています。ブルーンは、カロチン、ビタミンB群、カリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄などの栄養素が含まれています。西アフリカのココカス地方は、健康で、長寿の人が多くてとても世界的に知られています。ブルーンのふるさとココカスです。体を傷つける亜硫酸から身体を守ってくれるのが特徴的物質ですが、ブルーンにもその特徴物質が含まれています。果実表面の白い粉は果実自身が作り出している物質「自己防衛膜」で雨などから自分を守る「ブルーム」と呼ばれ、まったく無害なもの。むしろ果粉があることは、鮮度が良いことの証とも言えます。果粉はブドウなど他の果物にも見られます。



3時限目は、トウモロコシ、枝豆、落花生の収穫と試食です。トウモロコシは種まきから収穫まで約90日前後が一般的です。一人2本ずつ収穫しました。イネ科に属し、輪作障害はありません。茎の先端に雄穂(雄花)を、茎の中間に雌穂(雌花)をつけます。このように、雄花と雌花がひとつの株で別につく植物を、「雌雄異花植物」といい、雌穂の先端部分が茶色く枯れてくれば収穫時期である合図。この毛はじつは雌しべ。成熟した雄花から出る花粉は、この毛の中を通って、毛の基部にある実に入って受精します。



さらに収穫の際には目視のほか、トウモロコシの皮の上から指で触って実入りを確認しました。この後の試食が楽しみです。

参加者の声

- 子供たちに農業を体験させたかったし、私自身も農業を体験したかったので参加しました。毎回、違う新しいことを教えてもらえるので楽しいですし、しかも本で読むとかではなく体験しながらですとても楽しいです。リンゴの育ちの話を聞いて、リンゴは雌雄が高いと思われて、なぜか農家さんからこういう手間がかかるという話を聞いてとても勉強になりました。このように世間では知られていないことを知りよかったです。子供たちは作物が苗や種から植えて収穫を迎えるということを経験して、学校でも少しはやっていてもここでは種類も増えて色々体験できて、るのが一番かなと思います。(渡辺綾子さん)
- 札幌市の広報を毎年見ていて今年初めて参加しました。小学校でも農業の事はやってますが、この農小は色々なことが体験できる参加して、子供達の皆さんやスタッフと交流できたいなと思ってます。この農小に本当にお世話になって、たのびますがスタッフの皆さんが優しくしてくださって、何が分からない、分からないような状態だったので、色々ご指導くださって子供達にも分かりやすく丁寧に教えて下さるので本当に感謝しています。お父さんの協力も必要なので家族みんなでこの日だけと頑張ります。半年間なのでちょっとは大変だと思っています。私も小学生の頃、親戚のおじさんに農業体験や果物狩りなどに連れて行ってもらったことを今でも思い出しますので、子供たちもこの農小はいい経験になったと思います。(玉川浩美さん)
- マシオに住んで全然土に触れる機会がなくて、広報さぼるでみてこれはいいなと思、参加しました。特に子供たちがすごく楽しんでいた果物狩りが何回もあって、それは本当に楽しんで参加させてもらいました。また、最初から苗や種を植えて収穫して食べるというのがすごくいい取組みだなと思いました。また来年も参加したいです。上の子供は前からブルーンが嫌い、食べなかつたのですが、今日木から採って食べてみたらすごく美味しくて1個も2個も食べたので私もびっくりでした。ブルーンに対するイメージが変わって、やはりお店で買うのと味が違うというのが大きかったですね。これは一例ですがこれからの食育にごく役立つと思います。(豊盛さやかさん)
- 主人がガーデニングと家庭菜園をやっていて少しでも参考にしたいと思、家族で参加を決めました。ものすごく勉強になりました。普段聞かないことを先生方に教えてもらって家庭で実践していました。今までは土でキャンプに行く機会が多かったのですが、農小に入ってキャンプは減りましたが、日曜日にお弁当を作ってこよう家族で参加するのはいい機会をいただきました。また、縄文土器作りが子供も大人も大変楽しませていただきました。さらに苗植えから収穫まで一連の流れを全て体験していただき大変勉強になりました。果物狩りも色々な種類を体験できたのはとても大きかったです。(塩谷のりこさん)

【リンゴシール作り】 ポイントは単純さと線の太さ



【ブルーベリー収穫】 果物収穫は農小の大きな楽しみの一つです。



【トウモロコシ収穫】 実のつまったトウモロコシを手にするのと収穫の実感が伝わります。とても嬉しい瞬間です。



おすそわけです。



枝豆を茎からもぎ取り



収穫した枝豆と落花生



もぎたてのトウモロコシ



【トウモロコシ試食】 自分達で作ったと思うと格別な味がするようです。



リンゴも色づきます



落花生について (続き)

6月終りから7月頃に、落花生の黄色い花が咲きます。とても小さな可愛い花です。花の数は一株で200～300が個體開き、そのうち良い豆の入ったサヤになるのは30程度で早く咲き花も早いサヤになります。

花が咲いたあと、花のもとにある子房柄と根が伸び、柄が土の中に向かって伸び始めます。土の中3～5cmのところにとさつ子房柄の先が水平に曲がってふくらみ始め、そこにさやが出来ます。そのさやの中で豆が育ちます。

【下写真：茎から斜めに土の中に向かって伸びているのが子房柄】 ※資料：千葉県八街市 フクヤ商店HP



野焼きで作った縄文土器

発行：砥山農業小学校（代表 桜井学）
 住所：〒061-2275
 札幌市南区砥山126番地
 八剣山果樹園内
 電話・FAX：011-596-2280
 E-mail: info-h@hakkenzan.jp
<http://www.hakkenzan.com/nosyo/>